

1 算数について

全国と松山市の調査結果を比較すると、全体的には全国平均よりやや上回る状況でした。

学習指導要領に示されている、「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域は全国平均をやや上回り、「数と計算」の領域は全国平均とほぼ同じ状況でした。

評価の観点では、「思考・判断・表現」は全国平均をやや上回り、「知識・技能」は全国平均とほぼ同じ状況でした。

問題形式別では、「記述式」は全国平均をやや上回り、「短答式」「選択式」は全国平均とほぼ同じ状況でした。

2 分析結果から特徴が見られた問題

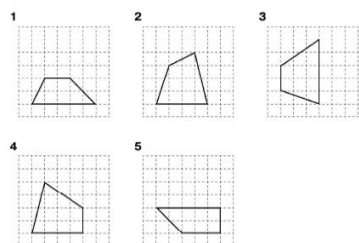
②②正答 1, 3, 5

全国の正答率 50.2%

松山市の正答率

「全国の正答率を大きく上回る」

次の5つの四角形の中から、台形を3つ選びましょう。



②④正答の条件

- ・ 1を選び、三角形と台形に分けて、面積を求める式や言葉を書いているもの
- ・ 2を選び、ひし形と三角形に分けて、面積を求める式や言葉を書いているもの

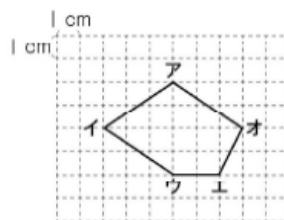
全国の正答率 37.2%

松山市の正答率

「全国の正答率を大きく上回る」

次の五角形を2つの図形に分けて面積を求めるとき、どちらの直線をひきますか。

また、2つの図形の面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。



- 1 直線イオ
- 2 直線ウオ

③④正答

$$\frac{5}{6}$$

全国の正答率 81.3%

松山市の正答率 「全国の正答率をやや下回る」

$$\frac{1}{2} + \frac{1}{3} \text{ を計算しましょう。}$$

3 考察

②②は、台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題です。図形の置き方を変えても、図形を構成する要素やそれらの位置関係に着目して、図形を判別する力を身に付けることができます。正答率が全国平均を大きく上回りました。

②④は、基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題です。多角形を基本図形に分割するなど、既習事項を使って求める力を身に付けることができます。正答率が全国平均を大きく上回りました。

③④は、異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題です。通分の意味を理解するとともに、単位分数の幾つ分という分数の意味を理解する必要があります。正答率が全国平均をやや下回りました。

4 これからの学習にあたって

日常生活の問題を解決するために、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、根拠を基に筋道を明らかにしながら考えたり説明したりする力を身に付けることが大切です。記述式による問題の正答率は、全国平均を上回っていることから、日頃から、疑問に思った課題に対して筋道を立てて説明したり、数学的に考察したりすることで更なる成果が期待できます。